

佳作

初めてわたしがにげ切るんじょうが できたおにげっじょう

愛知県 名進研小学校三年 川口 結禾

わたしが一番感動したことは、学校で中休みにおにごっこをしたことです。なぜなら、はじめてあの時につかまらずににげ切ったからです。

わたしははじめ走ることがおそかったので、おになるのにもにげるのをはじめはいやでした。けれども、みんなにげ切っていたところを見ると、なんだか楽しそうでした。だから、わたしもにげ切って楽しい気持ちになりたいと思いました。わたしはにげ切るために、みんなの走りを見ました。すると、足が速くてにげ切っているだけでなく、足が速い人といっしょにいたり、友だちといっしょにかくれたりしながらにげ切っていました。わたしはみんな工夫しながら、にげ切っていて「すごいな」と思いました。

次の日、わたしはそれを生かしたら、にげ切れると思いましたが、最初から速くなれるわけではあり

ません。だから、たくさん友だちをさそっていっしょににげてみることにしました。わたしは最初にみんなのめいわくにならないように、

「わたしは足は速くないけれどいい？」

と聞きました。わたしは友だちから「速くないと、だめ」と言われると思いましたが、そういうことは一言も言わず、友だちが、

「なら、いっしょにがんばろう。」

とはげましてくれました。わたしは「やったー」と思いました。だから、友だちに、

「ありがとう。」

と言いました。それから、わたしはにげ切るために、遊具のところにかくれたり、グラウンドの人ごみにまぎれたりして、おにげににげ切りました。わたしはみんなから、

「リセット。」

と聞こえたしゅんかんつい、

「やったー。」

と言いました。でもにげ切ってつかれていたの

「はあはあ」と、こきゅうをしていました。しかし、

わたしは友だちのおかげだと思い、友だちに何回も、

「ありがとう。」

と言いました。友だちからは、

「おめでとう。」

と言われて、とてもうれしかったです。みんなはわたしみたいにこんなにうれしいのかな、と思いました。わたしはうれしくなって感動しました。だから、わたしは家に帰ってすぐにお母さんとお父さんに言いました。すると、お母さんとお父さんにも、

「おめでとう。」

と言われて、とてもうれしかったです。

わたしはこれからおにげ切る回数をふやしていきたいです。そして、たまには、おにげになって友だちをたくさんつかまえて、また感動したいです。